

☆天文の基礎知識

— 星の等級の表し方 —

星の等級については前にも何度か書いていますが、「星空情報」を初めて見る新4年生がいますしこの情報紙でも星の明るさに関して毎月でくるので、また書きます。しっかり覚えるようにしてください。

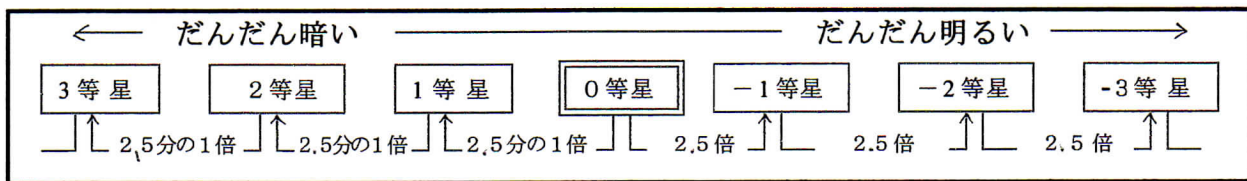
北極星の近くにあるいくつかの星の明るさの平均値を使って決めた基準によって、星は「1等星」

・「2等星」・「3等星」などと分けられ、暗い星ほど数字が大きくなります。

七夕の夜、「織り姫星」として有名なこと座のベガがかなり正確な「0等星」で、0等星の2.5分の1倍（約0.4倍）の明るさしかない星が「1等星」、1等星のまた約2.5分の1倍の明るさしかない星が「2等星」などとなり、逆に、0等星の約2.5倍明るい星が「-1等星」、-1等星の2.5倍明るい星が「-2等星」などとなります。

つまり、明るさが約2.5分の1倍（約0.4倍）しかなかったり、約2.5倍明るくなるごとに、1等級下げたり上げたりします。そのため、例えば、1等星は6等星に比べて5等級ちがうので、2.5を5回かけ算した分（ $2.5 \times 2.5 \times 2.5 \times 2.5 \times 2.5$ ）の約100倍明るいこととなります。

また、左の「今月のおもな天文現象」の欄に「マイナス2.4等の木星」とありますが、正確な1等星や0等星などにくらべて、ちょうど2.5分の1の何倍とか、2.5の何倍とかにならない星の明るさを表す場合は小数点をつけて表します。



（ただし、正確でなくてもいい場合は、2等星より明るい星全部を1等星と言うこともあります）

★親子で星空さんぽ

—春をかける夜空のライオン—

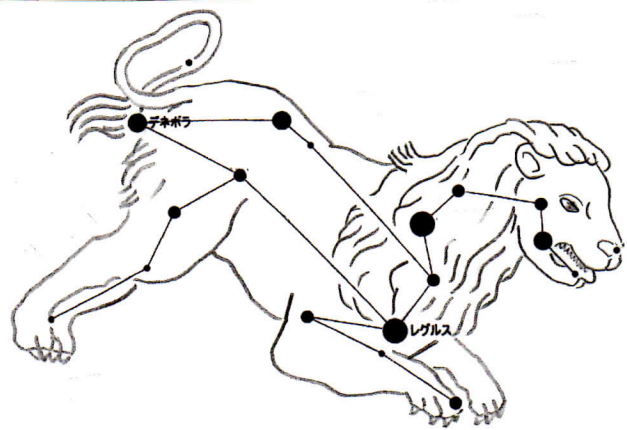
《しし座》

新型コロナウイルスで世の中大変になっていますが、こんな時こそ親子で星空をながめがいやされるひと時を過ごしてみませんか？

1回目は「しし座」です。春の星座の中でも特に形のととのった美しい星座ですが、特長は1等星レグルスから？のマークを裏返したような「？」の形の並んだ星ぼしですが、ヨーロッパでは草かりの“かま”に似ていることから、「ししの大がま」と呼ばれています。

ししの胸にかがやくレグルスは、「小さな王様」の意味で大昔から星占いでは重要な星でした。ギリシャ神話では、しし座はネメアという森に住む人食いライオンで、人々から大変恐れられていました。しかし、そこに怪力のヘルクレス（星の世界ではヘラクレスをこういいます）がやってきて、3日間も続いた戦いの末、ようやくこの「お化けじし」を退治することができたと伝えられています。

ししの大がまから、せなかや後ろ足の星をたどり「ししの尾」の意味がある2等星デネボラを結びと春の夜に西へかけおりにいく、大きなライオンの姿が浮かび上がってきます。



● 1等星 ● 2等星 ● 3等星 ● 4等星